

# 「復興実感の年」…目標を定めて復旧・復興を進めます

震災から3年あまり。「塩竈市震災復興計画」に基づき、災害復旧と津波浸水区域の復興を中心にさまざまな事業を行ってきました。今年度はこれまでに進めてきた復興への歩みが、実感として感じられる年になるよう、目標を定め、着実に計画を形にしていきます。

今月号では、現在進めている「復旧事業と復興事業（P5用語解説）」の進捗状況についてお知らせします。

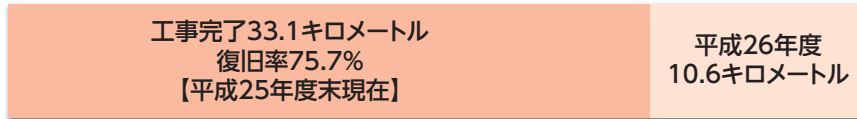
## 《主な復旧事業》

### ■道路復旧工事 → 平成26年度目標 **復旧率100%**

#### 【進捗状況】

芦畔町、旭町、本町、海岸通、野田地区の工事発注に向け準備を進めています。

復旧率 50% 100%



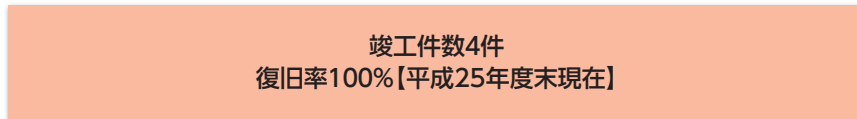
▲道路復旧工事（藤倉3丁目）

### ■がけ崩れ対策工事（復旧完了）

#### 【進捗状況】

藤倉1丁目、藤倉2丁目、母子沢、青葉ヶ丘の4地区について対策工事が完了しました。今後、造成宅地防災地域の指定解除手続きや崩落施設の取り扱いについて住民説明を行います。

復旧率 50% 100%



▲がけ崩れ対策工事完了（青葉ヶ丘）

問 土木課 ☎364-1118

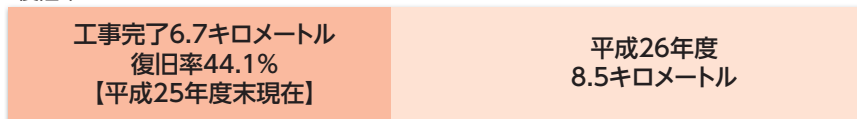
### ■下水道工事 → 平成26年度目標 **復旧率100%**

#### 【進捗状況】

昨年9月末時点で協議中となっていた復旧工事箇所（北浜、港町地区）が確定し、復旧対象総延長が2.4キロメートル延長されました。

また、道路の復旧工事に合わせてマンホールの高さ調整工事も行っています。

復旧率 50% 100%



▲汚水管復旧工事（敷設状況）

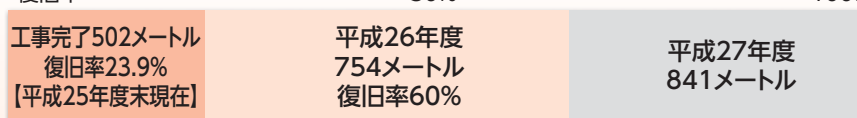
問 下水道課 ☎364-2193

### ■漁港復旧工事 → 平成26年度目標 **復旧率60%**

#### 【進捗状況】

野々島漁港では物揚場と浮さん橋の復旧工事を行っており、浮さん橋については年内の完了を目指しています。寒風沢漁港では昨年12月に浮さん橋の工事が完了し、現在、物揚場、護岸、道路の工事を行っています。

復旧率 50% 100%

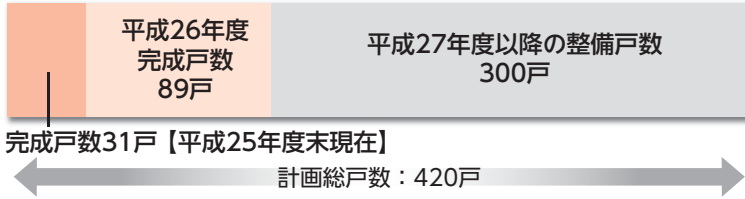


▲寒風沢漁港物揚場

問 水産振興課 ☎364-2222

## 《主な復興事業》

■ **災害公営住宅** → 平成26年度 目標 **完成・入居開始120戸** (完成31戸含)



▲ 宅地の造成工事が進んでいます (野々島・ブルーセンター背後地)

一日も早い生活再建に向け、年度内にすべての工事着工をめざします

入居意向調査に基づき計画戸数を380戸から420戸に変更し、新たに錦町東地区の整備について復興交付金の採択を受けました。伊保石地区の31戸はすでに完成し、平成26年2月から入居が始まっています。入居を希望される方々が一日も早く生活再建できるよう、平成26年度は、残り389戸すべての工事着工を、うち89戸（錦町・浦戸地区）で完成・入居を目指し、計画を進めます。

### 【災害公営住宅の整備計画と進捗状況】

整備箇所	伊保石(Ⅰ期)	伊保石(Ⅱ期)	錦町	桂島	野々島	寒風沢	朴島	北浜	清水沢	錦町東	
計画戸数	31	4	40	14	15	11	5		300		
進捗状況	完成済		平成26年度完成・入居予定					平成27年度以降			

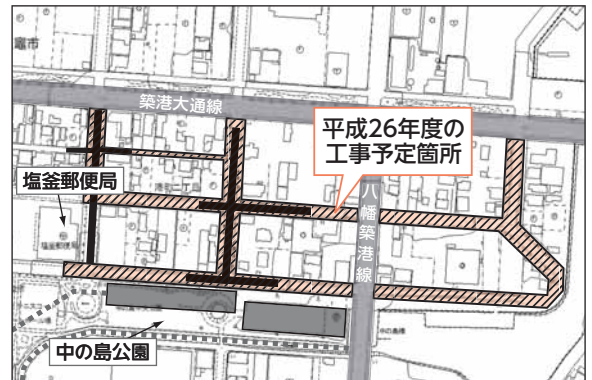
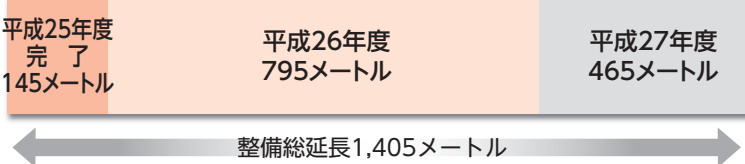
問 復興推進課住宅基盤復興係 ☎364-1111内線(342)

■ **港町地区復興道路整備事業** → 平成26年度目標 **整備完了延長940m** (完了145メートル含)

道路かさ上げ工事を進めています

平成25年度から道路のかさ上げ整備を進めている港町2丁目地区では、26年度も引き続き工事を行います。

現在の整備状況は145メートル(進捗率10.3%)。今年度は計画延長1,405メートルのうち、940メートルの完了を目指します。



問 復興推進課都市基盤復興係 ☎364-1111内線(347)

■ **港町地区津波復興拠点整備事業** → 平成26年度目標 **津波避難デッキ工事着手**

今年度からデッキの建設工事に着手します

観光客などが津波発生時に安全に一時避難できるよう、本塩釜駅方面からマリゲート塩釜間を連絡する全長350メートルの津波避難デッキの建設工事に間もなく着工します。また、隣接して設置する防災拠点施設については年度内に設計を終え、来年度からの工事着工を予定しています。

問 復興推進課都市基盤復興係 ☎364-1111内線(347)



イメージパース

## 用語解説? 『復旧』と『復興』の違い...

「復旧」は以前の姿や機能を取り戻すこと。「復興」は現状復旧にとどまらず、より快適で活気あるまちにするために新しいまちづくりを進めること。

「復興事業」では、震災の経験や教訓を生かし、安全で快適な生活環境を作るため、市民の皆さんと話し合いを進めながら、計画を進めていきます。